

# ジオテクサービス株式会社30年のあゆみ

～消雪から防災・計測そして未来へ～

工事にともなう危険性を  
限りなくゼロに近づける  
成否の鍵のひとつがそこにある  
私たちはその意味を十二分に知り  
実践の中で生かしてきた  
これからもその姿勢が変わりはない

# STRATEGY



2006年6月1日

ジオテクサービス設立当初のパンフレットより

## 目次

### 第1章

- 30周年記念誌発刊にあたって : 佐藤 代表取締役  
祝辞 : 五十嵐興和社長  
役員・社員のプロフィール (写真)  
社屋と人の変遷 (写真)  
会社の現況—事業内容、組織、業績推移他  
30周年記念式典

### 第2章 過去から未来へ

1. 消雪サービス創設期 (S51年)  
寄稿 : 早川 末吉 様  
インタビュー : 桑原興和副社長  
岩波、田辺、田中(水原)、青柳さん (故人)  
トピックス : 消雪ノズル、特許,  
56, 59 豪雪
2. ジオテクサービス発足 (学校町 S63年3月→6月にジオテク改名)  
寄稿 : 池田相談役  
インタビュー : 小川、大島、石川  
トピックス : 斜面モニタリング、台湾梨山、傾斜計  
基盤材
3. 変革の時代 (学校町～H9年7月14地質会館)  
寄稿 : 桑原興和副社長  
南雲利根コンサルタント副社長  
石黒 重寛 様  
インタビュー : 外山、鈴木、石塚  
岩波、阿部  
トピックス : 土石流災害  
消パイブロック、無散水  
中越地震
4. 明日への取り組み  
寄稿 : 佐藤代表  
インタビュー : 島田、下妻

### 第3章 会社の歴史

- まとめ : 金子
1. 事業
  2. 歴代社員・役員
  3. 年表

## ごあいさつ

ジオテクサービス株式会社は、昭和51年、前身である消雪サービス株式会社の創立から数えて、今年でまる30年の歴史を刻むことが出来ました。

私自身、この30年目という、会社組織にとっての節目の時に、代表取締役役に就任いたしましたことに、運命的なものを感じるとともに、次代に向けて新たなスタートを切らねばならないという強い使命感を覚えております。

この30年を節目に、改めて会社の歴史をひもといてみますと、創立時の消雪ノズルの販売から始まり、12年目に、現在のジオテクサービス株式会社に社名変更。取り扱い品目に消雪パイプブロックや井戸カメラ診断も加わり、さらに防災・計測の専門会社として、歴史を積み重ねてきました。

この間、会社規模自体は、大きく拡大しておりませんが、豪雪、地すべり、土石流災害、地震など、その時々々の自然環境と社会情勢の変化に、人も組織も柔軟に対応して、新たな技術も模索しながら、着実に事業を押し進めてきた経緯が垣間見られます。

このような、30年の歴史は、一朝一夕に出来上がるものではなく、諸先輩がたの、地道な努力の結果であったことと思います。

この数年、ジオテクサービスは、比較的安定し水平飛行の状態にあります。しかし、この状態が、飛行機が機種を上げ、空高く飛翔する前の準備期間なのか、あるいはやがて失速する前の、小康状態なのかまだ、混沌とした状態にはあります。しかし、ジオテクサービスの築いてきた、雪と地盤のサービスマンとしての社会的使命を全うするために、我々はこの会社を持続的に発展させるべく努力を惜しまぬつもりです。

そして、来るべき次の50年の節目に、また皆様と集い、会社の未来と思い出を語りあえる日が来ることを祈念いたします次第です。



代表取締役 佐藤 朗



大阪への機上にて

## ジオテクサービス株式会社 創立30周年を記念して

株式会社 興和 代表取締役社長 五十嵐 武

ジオテクサービス(株)が創立30周年を迎えることとなり、誠に御同慶に堪えません。

昭和51年1月に当時の興和地下建設(株)から独立し、消雪ノズル等の融雪資材の販売を目的に消雪サービス(株)が設立され、(株)興和と協力して消雪分野で新潟県をはじめとして北陸地方に大いに貢献してまいりました。

その後、昭和63年には新たな営業展開として、地すべり観測機器等の販売、施工を新しく業種に加え、社名も業種に合わせ、ジオテクサービス(株)に変更され今日に至っております。

その間、地道ではありますが機器販売や計測分野という特殊な分野を担って一步一步前進させ、ジオテクサービス(株)の灯を消さなかったのは歴代の役職員の粘り強い努力の賜物と思います。

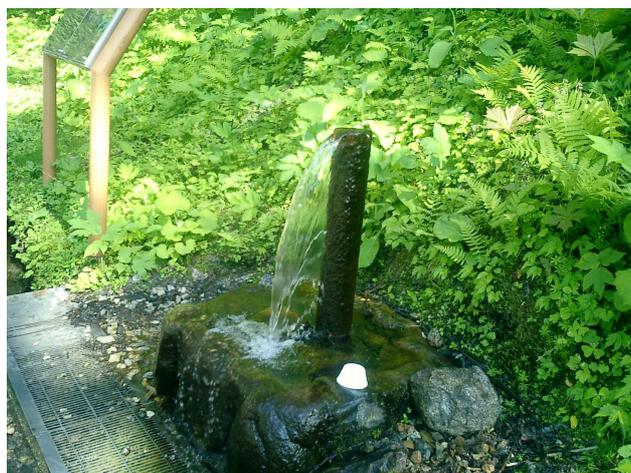
しかし今後公共事業の縮減に加え、同業者との間で価格と品質で厳しい競争環境になることは必至でジオテクサービス(株)が成長していくのは、並大抵のことではないと推測されます。

このたび専任社長に就任された佐藤朗社長の指揮のもとで、先端技術の開発に努めるとともに、全員が自らの役割を自覚し目標に向かって努力すれば必ずや展望は開けるものと思います。

どうかジオテクサービス(株)が“小粒でもキラリと光る会社”に成長されますことを、強く期待しております。

(株)興和といたしましても、その為のあらゆる協力を惜しむものではありませんし、私は興和グループ各社が自立し、強い会社に成長してこそはじめて(株)興和も優良会社になったことを自覚できるとしております。

ジオテクサービス(株)の創立30周年を契機に全役職員の一層の奮起を期待してやみません。



立山カルデラ天涯の湧き水

## 地下水との出会い

初代創業社長 早川 末吉(直志)

青葉若葉が野山一杯に映え出る六月の佳き日、ジオテクサービス株式会社は創立三十周年を迎えることができました。これは社員の皆様方が一丸となって厳しい時代を雄雄しく逞しく生き貫いて来られた賜物と衷心からお喜び申し上げます。



当社は、親会社である(株)興和の前身興和地下建設株式会社技術部(現水工部)が開発した「消融雪散水ノズルと道路融雪技術の特許工法」を営業品目にして昭和五十一年一月(1976)、資本金一千万円(全額興和出資)で、消雪サービス株式会社とし発足したのであります。

### 会社設立の趣旨

- 一、「消雪ノズル」の製造販売部門の独立
- 二、消融雪工の工法特許の貸与
- 三、消雪井戸及びパイプの診断・補修工事

技術部の工事部門から消雪ノズル(特許所有者早川末吉)の製作・販売部門を分離して設立。

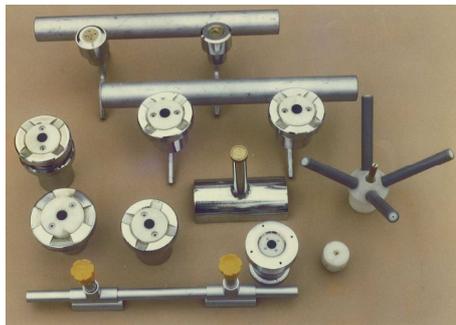


昭和 51 年度除雪機械展示会

この間の経緯は調査部から技術部が独立(早川常務独断)、さらに興和地下建設株式会社、その前身である三協地下開発工業(株)の創業による(株)田中組と興和地下建設(株)との出会いにまで及ぶことにある。\*



建設省が最初に試験工事として施工した消パイ工事  
(高田市南木町・延長(昭和13年))



川岸町でノズル実験中の青柳さん



一滴一滴したり落ちる水滴はそれが集まって瀬となり、やがて溪流になって野山を流れて海に注ぐ。地に潜った水は石と砂、砂と石の僅かな隙間の間を先に入った水に引っ張られ、後から入ってきた水に尻を押されて地下深く浸透してやがて水脈となって地下水層と成る。

私たち一人一人の間は父母から生まれ、その父母は祖父母から、その祖父母は曾祖父母からと何万何十万年の時間をかけ、その時代々の社会環境の変化という隙間の間を潜って流れ継がれてきた血の一滴である。

何時の時代にあっても親から子へ、子から孫へと受継がれて今日の自分があるのだということを忘れてはならない。

地球という住处(すみか)を同じくする生き物のすべてが私たち人類と同じように彼らの先祖から受継いだ生き方で子孫を残すための努力をしてきている。ただ人類はそれを次代の子孫に受け渡す時に社会環境に適応した生き方を工夫して引き渡すというのが他の生物と異なるところである。



私たちの血が子からそして孫にと受継がれると同じく人間の共生の場である会社にあっても同じことが言えます。

日々変わる環境の変化に対応できたものだけが生き残れ共生社会では、弱肉強食の利己心を持つてはいつか必ず自滅の運命が待っていることを歴史は教えてくれている。

人間は叡智を有する生物である。まだ怠惰の心を有する生物でもある。怠惰を排して持っている叡智を出し合って、日進月歩の社会を先導する術を社員の皆さんで発揮することを期待申し上げます。

私が中学四年生(旧制中学校は五年制)の十二月八日、太平洋戦争勃発、進路を戦争遂行上に欠かせない石油採掘の技術を選んで進学、世界の石油を掘り当てる夢は敗戦で消滅。

新潟県の地下資源探査に従事するうちに「地下水」との出会いで水道水源、灌漑用水、工業用水と出会う。また新潟平野の地盤沈下問題で設立早々の「日本地質学会」と出会う。新潟東港工業地帯の地盤調査で土質調査の先駆として従事。三八豪雪で長岡市が設置した雪害対策室の「消雪パイプ」部門を技術委託して従事、同時に発生した松之山地滑り災害防止工、特定法面工など一期一会の因縁を大切に生かし生かされてきました。



華やかな建設分野では陰に隠れた「井戸屋」の職人の一員ではあるが、「井戸水」の「地下水」を抜きにして地滑り、急傾斜保護、そして地震災害から豪雪災害の「自然災害防止技術」の原典技術に携わることができた幸運に感謝しています。

論語に「十五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。」とあります。会社は本年をスタートに「不惑の四十年」に向かって社員一同邁進して下さい。益々のご発展を祈ります。



- \*「こうわ20年のあゆみ(昭和54年4月)」
- \*「妻有の里の水談義・水工部30年のあゆみ(早川直志編2000. 8)」

原稿は自転車で届けていただきました。

### I. 発足前夜

それは当事者にとっては晴天の霹靂であった。想い起こせば㈱興和が相変らず衰えも見せず右肩上がりの好成績で成長を続けていた昭和63年の春未だ遠い寒さの3月の頃でした。「少し話したいことがある。」と当時の K 専務に呼ばれて切り出された話が「消雪サービスを増強して新生させたいので、その責任者になって貰いたい。」との主旨であった。

当時、私は㈱興和の営業部長として重責を抱えており、また60歳近くなって謂わば新しい会社の責任者として務まるかどうかの懸念もあって即答しかね、新会社の構想については K 専務と1時間余りも話をしたのでした。

そのことを要約すると

- イ. ㈱興和として消雪ノズルー辺倒だけでなく新しく開発した機器材の販売、新技術のノウハウを独自に専門に扱う別会社がほしいこと
  - ロ. 将来発生するであろう定年退職者を含めた㈱興和との人材交流が図れる会社がほしいこと
  - ハ. 人材的には当時消雪サービスに在籍の故 A 氏の他、工事部ベテランの O 君、水工部中堅の O 君、経理は興和ライニングも兼務する K 君、女子社員1名で責任者は私の合計6名概略以上となるが、私は即答出来ず一晩考えさせて頂いて翌日、次の条件的なものを用意してお返事したのでした。
1. ㈱興和からの転勤者については、業績によるものは別として、待遇は㈱興和社員と全く同一に取り扱ってほしいこと
  2. 営業も含め現業各部とも有形無形のバックアップをお願いしたいこと
  3. ㈱興和との人材交流を活発にして貰いたいこと
  4. 消雪サービスの H 社長の了承を取り付けて頂きたいこと
  5. 私の後任の営業部長の人選をよろしくをお願いしたいこと

大体以上の様な事柄であったろうか。そして H 社長との話し合いは早急に実現し、K 専務からその旨お達しがあり、他の事項も了承とのことであった。特に私が心配していた後継の営業部長には当時の K 部長をとのことでしたので、これなら安心むしろ K 部長の抜けた現業部に迷惑がかかって大変だし済まないなどと思いつつも一応の条件が満たされたので、私もそれ以上我が侘も言えず新しい会社としての代表をお引き受けするとのお返事を申しあげました。

そしてその年(昭和63年)の4月1日から新生消雪サービス㈱が発足したのですが・・・

### II. 肩身の狭かった間借時代



興和の営業部のフロアに間借

新生の会社とはいえそれまではほとんど H 社長と故 A 氏との二人だけで好成績を挙げてきている会社です。それなのに故 A 氏が水工部の一隅にデスク一つと書棚を置いただけで事務所の形は何もない。そこで当社の事務室は当座、学校町の興和ビル（現在のビルの前身）内の営業部と管理部が使用のフロア一隅に5・6脚の机、椅子と若干の書棚を並べて謂わば間借り生活の形で事務室を発足させた。そして4月1日に故 A 氏の他に新しい辞令を貰った O 君、K 君、O 君、そして紅一点 Y 嬢に私の6名で取り敢えず会社をスタートさせたのであります。その後事務室は同じ学校町の興和ビル5階の一室を他のテナントさんと同率の家賃で借り受けて移転し、（この家賃はまだ売上の少ない会社としてはかなり苦しい負担でした。）



学校町興和ビルの5階に引越し

その後、縁があって女池にある元地質調査業会館ビルだった今の建物へ平成9年7月に移転するまでの約10年間肩身の狭い間借生活を続けたのでした。（因みに現在の事務所は元会館の3階フロアで、土地及び建物の権利を(株)興和2/3、当社1/3として地質調査業協会から購入したものであって、当時としては当社唯一の不動産であった。）

この事務所開きには同年3月に(株)興和の新社長に就任されて未だ日も浅い現在のI社長が列席してください、貴重な祝辞を頂いたこと、当日のささやかな祝宴の折箱に赤飯、紅白の饅頭を添えてF組のF会長の許へご挨拶とお礼に伺った処、日頃の謹厳実直なお顔が破顔一笑「おう、ジオテクも自前の事務所を持てる様になったか、良かった、良かった。これはごつつおだの。」と我が事のように喜んで下さったこと等忘れられないエピソードの一駒であり、私にとっても色々な意味で二重三重の喜びでした。



現在は旧地質会館の3階です

#### 閑話休題

事務室も落ち着き、何よりも人員も過不足なく揃いましたが、さてその次には何をすべきかと打ち出したのが次の事柄でした。

### Ⅲ. 発足当初のお仕事

1. 現在背負っている前任の仕事を一日も早く片付け、バトンタッチして身を軽くする。と同時に(株)興和の現業部との接触を一層密にし、夫々の持つ新技術・新製品を受け継ぐ。
2. 一にも二にもPR。会社と製品とそして技術とノウハウ。
3. 商号の変更。

1については、各人が各部での大先輩であったり中堅者であるので、背負っていた仕事も責任あるものが多く、簡単にバトンタッチは難しい様でありましたが、お互い夫々が新しい立場を理解して成るべく早く身軽になるように協力してくれて余り問題も無くバトンタッチも出来ました。新技術・

新製品のマスターについても夫々従来の仕事と全く無縁なものではなかったのが比較的早い間に受け継いだと思われます。特にその頃技術開発室で開発したての新型の埋込式傾斜計GICシリーズの製品とその活用例については、これこそこれから先会社の中心物件となり得るものと、全員目を輝かせ興味を持って接したものでした。実際このセンサー及び活用法はジオテクの主要品目として現在も継続しています。

2については会社自体全く未知のものであり、新技術についても知られていない筈なので、まず初めはPRしかないと全員で以下の事柄に取り組みました。

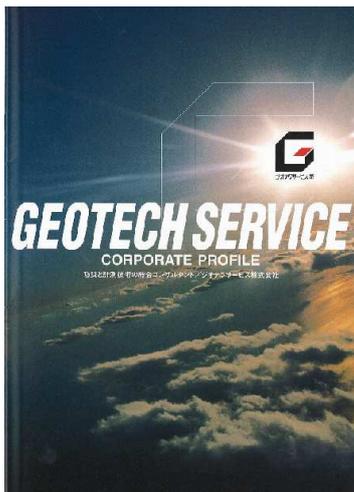
- イ. 顧客の名簿作りと挨拶状の発送、名簿は各種学会・各種協会・近隣の諸官庁・計測機器メーカーと商社等の名簿から目ぼしいものをピックアップして作成した。
- ロ. 会社及び取扱商品のパンフレット作り
- ハ. 挨拶廻りと重点営業の繰り返し
- ニ. 取扱商品の実演、デモンストレーション



埋込式傾斜計

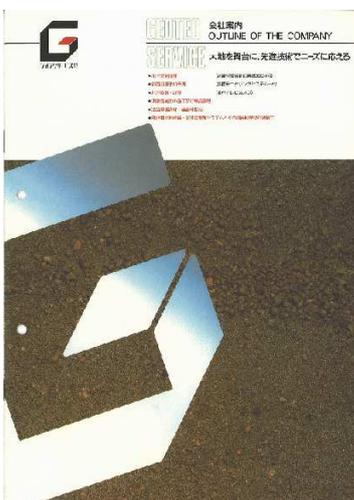


傾斜計の設置作業



本当にあの頃は今思い返しても感心するほど全員が良く動き回りました。特に効果的だったのは、学会への参加と展示・実演、各顧客の許に向いてのデモンストレーション、パンフレットのメール作戦だったと思われます。

3については、営業種目や内容が大幅に増えているので当然変更が必要でした。偶々私は以前からジオ(大地とか地球の意)なる言葉に興味を持っており、何かの時には使いたいと思っていました。また一方、日本の高度成長期頃から良く使われていた言葉の一つに、テクノロジー(工芸、工学、新しい産業工学技術等の意)なる語が頭の中にあっただので、この二つの言葉を結び合わせればわれわれの仕事に相応しい造用語が出来ると考えました。初めは「ジオテクノロジー」としたのですが、少々冗長気味であったので「ジオテク」と縮め、更にサービスを提供する会社の意味も加え、また前社名の精神も受け継いで「サービス」をつけて「ジオテクサービス(株)」としました。「ジオテク」とはねたほうが今流で良くはないかとの意見も社内外にありましたが、「テック」と促音便が入るよりも「ジオテク」と音便の入らない自然のままのスムーズに流れる発音の方が落ち着いて穏やかになるので「ジオテクサービス」に決めました。



また、商号(社名)に伴う商標は、ジオテクのGを図案化したもので、カラーで見ると一目瞭然ですが、Gの中にある菱形の赤色は「内に秘めたる情熱」を表すものです。ある印刷会社が少人数ながら一人

一人がやる気のあるわれわれの会社の意気を感じて格安の価格でデザインしてくれたものです。

新しい商号は昭和63年6月1日付で登録し、名実共に新会社として生まれ変わりました。新生ジオテクサービス㈱はこの日を新しい創立記念日としてお祝いしております。余談になりますが、何年前頃でしたか緑化工学会のレセプションの会場で2～3年振りにお会いした東京農大の某教授が、私が「お忘れてでしょうが・・・」とご挨拶したところ「一度聞いたら二度と忘れられない凄い会社もの、忘れなんかしませんよ。」と冗談ともつかず言われたことは、分かる人には分かって貰えると誇りに思えるような良い名前だと意を強くしました。



H.5年 小林君入社



H.9年 下妻君入社



思い出の旅 よりなれ岩室温泉（新潟） 平成9年12月

岩室での忘年会



グリーンピア津南への社員旅行

#### IV. ジオテクの目指すもの

当社は発足当初から1～2名の或いは5～6名の小集団の会社でした。併しその辿って来た道は技術にしる各種ノウハウにしる扱う製品にしる殆ど同業他社には劣らぬ先端を行く新しいもので勝負してきました。「小粒でもキラリと光るダイヤモンドの様な会社になろう」が私共の合言葉でした。他には無い他には追隨を許さない北陸にジオテクあり、否、日本にジオテクありと認められる会社を目指して誕生した会社です。

併しながら発足当初は人員的には少数であり扱うものも消雪ノズルー辺倒で僅かに傾斜センサー単品の売上で汲々としていたのが実情でした。その後センサー単体でなくセットで販売となり、設置工事も含めての受注となりで計測部門での一本立ちが出来るようになりました。更に地滑り等の自動観測、監視システムまでの受注が可能になりました。



消パイブロックの施工

一方、消雪ノズルの販売も消雪パイプブロックとしての販売がテコ入れとなり、売上が伸びました。更に工事部との連携で法面保護材としての基盤材を扱うことで販売の三本柱が組み上がりました。

基盤材の販売は数年前から中止したのですが、最近それに代わる計量計測の仕事が増え、この方面での需要が期待できそうなので、近い将来三本柱の一つとしてがっちり組み込まれるようになることでしょう。これらの仕事は殆ど親会社(株)興和のバックアップによるものが大きいのですが、お互いの為であるのなら、今後も共存共栄でやらせて頂きたいと思うものです。

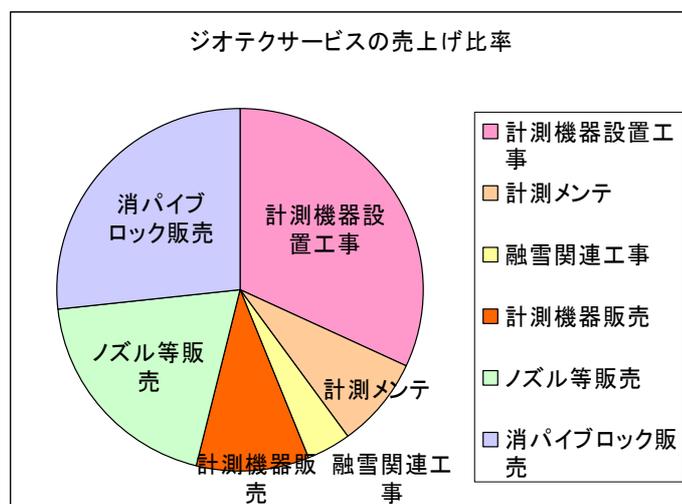
我々が目指しているものは必ずしも100%達成はできません。併し常に考えていることは、他がやらない新しいことより良いことを他に先んじて実施する。そしてそれが世の為、人の為になり、もっと大きく言えばそれが地球との共栄につながっていて、そのことが即各人の幸福となって返ってくるような会社でありたいし、それが出来る会社としてジオテクサービスは存在意義があるのだとの精神だけは現在も受け継がれていると思う。そうした理念を持つ会社こそが、ダイヤモンドのようにキラリと光る会社であって、それこそが我々が目指すものであり、ジオテクの未来は更に輝きを増すであろうと想うものである。ジオテクの生誕と未来に乾杯！

 吹付用植生基盤材  
株式会社ジオテクサービス  
吹付用植生基盤材



H.7年台湾モニタリングの現場を終えて

現在のジオテクサービスの売上げ比率



## 台湾モニタリングの記録

平成7年から11年にかけての5年間は、台湾の梨山地すべり地へ、自動観測システムの設置工事に毎年かけていました。ここには、興和、ジオテクの多くの人に関わり、コンサルティングは興和、設置技術指導はジオテクという役割分担の中で、我々の技術が海外でも通用するかどうかを確認する、貴重な体験の場となりました。



梨山全景



地すべり斜面



観測局も中華風



傾斜計組み立て指導の下妻君



ボーリング指導の小川さん



ついでに集水井戸も技術移転



水土保持局での打ち合わせ



現地計測技術代理店のスー兄弟



初の海外受注のため管理部角木君も動向  
(後ろは発注者の台湾工業技術院のビル)



ダム湖のほとりにて

## 変革の時代

株式会社 興和 取締役副社長 桑原剛

私がジオテクサービスの代表を兼務したのが平成10年12月から15年12月までの5年間です。この5年間に建設業を取り巻く環境は大きく変化してきましたし、ジオテクサービスも時代の影響を受けました。

振り返ってみますと、平成10年はジオテクサービスにとって厳しい年でした。そこで、今後ジオテクサービスとして、独自性を発揮して自立するにはどうするかということで、社員と議論することから始めました。その結果、興和と少し違った計測分野を主たる業務として取り組んでいくことにし、その方向は「特色ある計測コンサルタントとして、県内における地位の確立を目指す」ことにしました。そしてもう一つは顧客先の拡大・確保を図っていくことでした。

特色ある計測コンサルタントを目指すことについては、外山統括部長が指揮を執り、顧客先の拡大については、OBの石黒さんが営業部長として県土木部を中心に顧客開発に当たってもらうことにしました。

これらの方針を立ててスタートした翌年の平成12年には、計測に関する受注も増え受注額は4億円台となり、賞与額も興和とほぼ同じ位支給することができました。

ジオテクサービスとしては、小さくてもピリットした特色のある会社に発展させることの目標と方向が定まり、今振り返ってみて変革の時代であったと思います。

しかし、平成12年以降は受注額や収益額も年々低下し、初期の目標通りには進展しなくなった。そこにはやはり、売り込める製品や提案できる技術力そして、ソリューション力などが伴わなかったし、営業についても顧客先から興和=ジオテクサービスであるとの認識が強く、総合力のある興和に依頼する傾向にあり、成長発展につなげることができなかった。この



点での反省はあったし、また代表も専任が必要と痛感した。そして、社員は少数で大いに努力はしているが、精鋭になるには新たな努力が求められるし、特色ある会社を目指していくには、それに必要な人



THE ALARM SYSTEM FOR DISASTER OF EARTH AND SAND  
**土砂災害警報システム**

**概要**  
2CH警報機とセンサー等の連携を強固なネットワークで構築し、発生した地震や土砂災害の発生をいち早く検知し、アラームを鳴らすことで、人命や財産の被害を軽減します。また、他に侵入した水や土砂の検知も可能です。また、システムは24時間監視から発生した災害発生時に、工事現場や危険な地域へ警報を発し、避難を促すものです。現地の状況により様々なセンサーや警報機を組み合わせることが可能です。

**特徴**  
・無線電話（DECT）が使用できます。  
・センサーの検知によりデータの記録が可能です。  
・アラームセンサーの他に検知用のセンサーも搭載可能です。  
・現場でのセンサー・記録機の組み合わせで常時監視、携帯電話、簡易電話等で様々な方法により警報の伝達が可能です。  
・現地の状況によりセンサーや警報機を組み合わせることが可能です。

**機器の構成**

2ch警報機 ← 接続センサー → 各種センサー  
各種センサー  
各種センサー

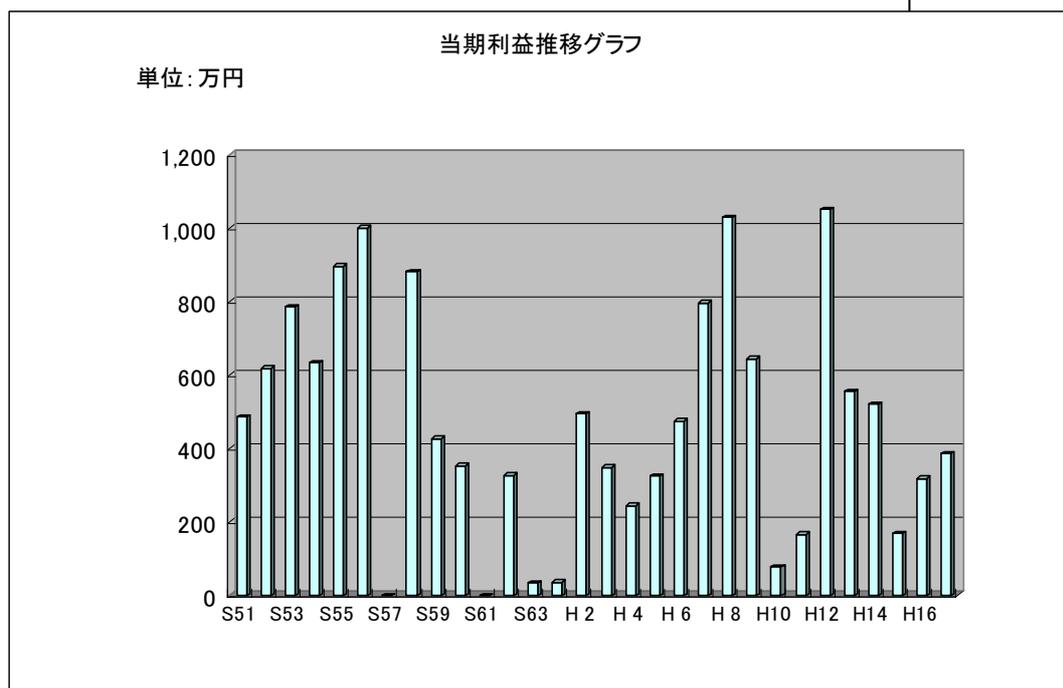
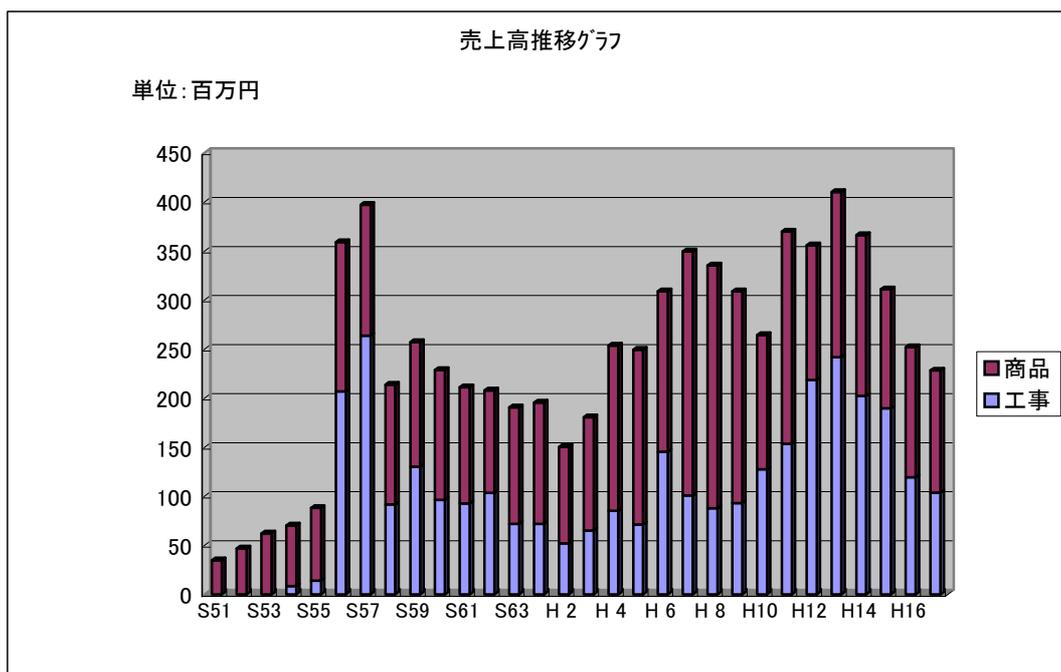
土砂流警報システムを開発

材の確保と市場から求められる製品の開発や技術力のレベルアップが必要である。これらのことを進めることで新たな発展につなげることができるであろう。

興和としても、グループ各社との連携を強化し共栄を図ることになっているので、今までの経験などを生かしてジオテクサービスの発展に、少しでも寄与できるようにしたいと考えている。

佐藤代表のもとジオテクサービスが発展することを願っている。

### 受注と利益の推移データ



## ジオテクサービス創立30周年を超えて

利根コンサルタント（株）南雲 政博

ジオテクサービス（株）が創立30周年を迎えられたことは、この間多少なりとも関係した者にとっても喜びに耐えません。改めて、おめでとうございます。

一口に30年と申しましても、この間に色々なことがありました。振り返りますと、概ね三つの時代に区分できるような気が致します。

先ず、消雪ノズルとその関連商品の販売に端を発した会社から、多種多様のノズルの開発、そして過当競争の時代を第一期とすることが出来ると思います。

第二期は、ジオテクサービスへ名称変更した昭和63年から平成15年頃まで。

第三期は、平成16年以降現在まで。

私は、この区分の第二期以降深い関わりを持たせて頂きました。特に第二期は、多発する災害、と公共投資額の多さから、会社が最も活気づいたときでもあったような気が致します。第三期は、一転して公共投資の減少、それも今まで経験したことのない様なスピードでの歳出カットの時代を迎え、その経営方針を大きく転換させました。

企業は人なりとよく言われますが、規模が小さくなればなるほど一人一人の役割が大きくなると共に、その優劣によって業績が大きく左右されます。現在は、創業の原点に戻って、コンパクトな組織で迅速に業務を行うことで、顧客の信頼を得て経営をされているようですが、これから先、大きな組織に成長したとしても原点を忘れずに業務を遂行して頂きたいものです。

さて、バブル経済の末期頃でしたでしょうか「会社の寿命は30年」とよく言われた頃がありました。我が国では、戦後の混乱期を過ぎた昭和三十年前後に創業した会社が多く、この頃に丁度30周年を迎える企業が多いため、当時は盛んに議論もされました。これを別の面から考えて見ますと、新入社員の年齢を20歳代として、定年を55歳とすると、丁度一世代に当たります。つまり、次世代に上手く繋げる事が出来る企業は、生き残れて、繋げられないところは、寿命を向かえるとの意味にもとれます。無論、ジオテクサービス（株）は、



第二期の最初の仕事であった地すべりモニタリングと空洞探査

前者で無くてはならないと思います。

昨今、企業は誰のための物か、と良く言われております。株式会社である以上株主が優先されるとの考えが大勢を占めた時が一時期ありましたが、ごく最近では、社員（役員も含む）の生活（幸せ）あつての会社ではないかとの意見が、大勢を占めるようになってきました。

ジオテクサービス（株）におかれましても、社員とその家族の幸せのため、次の50周年を目指して、一致団結して、頑張っしてほしいものです。

最後に、創立30周年誠におめでとうございます。



中越地震一山越村東竹沢の地すべり



ジオテクも自衛隊ヘリに搭乗



伸縮計を設置する石川さんと大川君（興和先端）

### 現在のスタッフ紹介



石川さん



岩波さん



金子さん



下妻さん



島田さん



阿部さん

## 雑 感

石黒 重寛

創立30周年おめでとうございます。

私は平成12年から4年間お世話になり、最後の職場として有意義な経験を戴いたことに今更深く感謝申し上げます。

ジオテクサービスは小規模な会社故に他社では味わう事の出来ない家庭的な雰囲気があり、楽しく過ごさせて戴きました。

ご案内にもありましたように当初は融雪関連の会社として発足されたようですが、私が入社した当時は消雪関連施設もほぼ整備が進み、メンテナンスの時代に入り、自ずと営業を転換せざるを得ない時期であり、ジオテクサービスの方向性を問い続けられた時期でもありました。

その一例として建設工事の安全対策についてなどを提案しましたが事故発生直後は予防対策を痛感するものの、事前の工事については危険の予知勘が少なく予防対策についてはおろそかになりがちで真剣に議論に乗ってくれない場合が多かったような気がした。

また、親会社の榊興和との営業内容の類似性が多いため、単独の受注機会は難しいことが多かった。そんな中で若い社員が真剣に現場を走り回り奮闘されている姿を拝見する度にわが社としての営業方針を如何にすべきかを常に問いかけ続けられた4年間であったような気がします。

現在は中越地震とそれに続く豪雪により有利な条件が整っているものと思われませんが、公共事業の縮小と相まって地方から都市部にシフトされる傾向があり今後の営業は容易いものではないものと思われま。

今後は社会の要請を踏まえジオテクサービスの持っている得意な技術を生かし、新分野にも挑戦しながら益々ご繁栄されることをご期待申し上げます。



現在の事務所内の様子



機材倉庫は向かいの新幹線高架下にあります



災害緊急出動用の機材等を保管

## 会 社 の 歴 史

管理課長 金子 佐一郎

当社は、昭和51年1月31日に、当時の興和地下建設株式会社(現株式会社興和)が開発した「消雪ノズル」の製造販売部門を独立し、消雪サービス株式会社として設立いたしました。代表取締役には早川末吉氏が就任し、青柳社員(故人)がノズルの販売を担当されました。

その後、同年7月には新潟県知事許可(土木、管、さく井)を取得し、建設業としてのスタートを切ることが出来ましたが、常勤の社員が居ないために、ほとんどが外注に頼らざるを得ない状況でありました。

このような状況から脱却するために、昭和63年4月に施工体制の充実と、新規事業の拡大をはかるべく、代表取締役に池田 朗氏が常勤で就任され、興和から小川氏、大島氏が出向し、私も興和ライニングと兼務で経理を担当することとなり、青柳氏および女子社員を加え6名で再スタートを切りました。

当時興和で開発した地すべり感知用の傾斜センサーを中心とした計測機器の販売および設置工事と、興和が開発(アドヴァンス製作)の消雪パイプブロックの販売を新たな業務に加え、6月には社名をジオテクサービス株式会社に変更しました。

平成元年には、法面緑化基盤材「Gソイル」の販売を始め、傾斜センサー等の販売や設置工事も、平成2年の石川氏の入社とその後の社員の増加により施工体制も充実し、ジオテクサービスの中で大きなウエイトを占めるまでになりました。また、平成7年から興和のもとで、台湾の梨山地すべり地でモニタリング機器販売、技術指導を行うこととなりました。

平成9年には、現在の社屋である建物、土地の3分の1を新潟県地質業協会から購入し、ようやく自前の事務所を持つまでになりました。(残り3分の2は興和所有)

平成10年には、外山氏出向により建設コンサルタントの登録を行い、その年の12月には、池田氏が取締役相談役に退き、桑原 剛氏が代表取締役に就任しました。

平成12年には、長い間会社を支えてきた小川氏が1月から興和へ移動し、3月には青柳氏が定年退職となりました。その後青柳氏は亡くなり、今回の創立記念を祝う事が出来ず本当に残念に思います。

平成15年には、それまで比較的順調に売上を伸ばしてきた計測機器の設置工事の落ち込み、また、外山氏の出向解除による建設コンサルタント登録の消除、業務の見直し、人員の変更・削減を行ったものの収益は悪化しました。

12月には南雲政博氏が代表取締役に就任し、ジオテクサービスの原点に立ち返り、規模を縮小し計測機器の設置、販売と消雪機器の販売に特化しました。16年4月には長年携わってきた大島氏が興和の出向解除となり、現在の人員石川、岩波(13年出向)、島田(13年入社)、下妻(9年入社)、私、阿部(派遣)の6名となりました。

本年1月から佐藤 朗氏が代表取締役に就任し、ジオテクサービスの30周年を迎えるとともに、役職員協力し新たな歴史を築いて行きたいと思っております。



| 沿 革   |            |   |       |  |
|-------|------------|---|-------|--|
| 年     | 会社の経歴と主な工事 |   | 社会の動き |  |
| 昭和51年 | 1月         | 消雪サービス株式会社設立<br>新潟市川岸町3丁目17番地 資本金 500万円<br>役員(代取)早川末吉 (取)福田 正、池田 朗<br>(監)吉沢時男 | 2月    | アメリカ上院外交多国籍企業小委員会公聴会で<br>ロッキード事件の疑惑が発覚 |
|       |            |   | 8月    | 道路公団新潟建設局が開局                           |
|       | 7月         | 新潟県知事許可(般-51)第4368号 土木、管、さく井  |       |  |
| 昭和52年 |            |   | 7月    | 初の気象衛星「ひまわり1号」打ち上げ                     |
|       |            |   | 9月    | 政府が柏崎原発の設置を正式に許可                       |
|       |            |   | 9月    | 巨人軍王貞治756号の本塁打世界新記録を達成                 |
| 昭和53年 |            |   | 5月    | 新東京国際空港(成田空港)が開港                       |
|       |            |   | 8月    | 日中平和友好条約に調印                            |
|       |            |   | 9月    | 北陸自動車道の新潟～長岡間が開通                       |
| 昭和54年 |            |   | 1月    | 国立大で初の共通一次試験を実施                        |
|       |            |   | 1月    | 上越新幹線大清水トンネルが開通                        |
| 昭和55年 | 11月        | 消雪パイプブロック実用新案登録   | 4月    | 新潟県庁の移転が県議会で正式に決定                      |
|       |            |   | 11月   | 上越新幹線の試運転が始まる                          |
| 昭和56年 | 1月         | 興和ライニング株式会社設立   |       | 上・中越地方に豪雪                              |
|       | 3月         | 桑原 剛取締役就任、池田 朗取締役退任   | 4月    | スペースシャトル「コロンビア」が初飛行に成功                 |
|       |            |   | 10月   | 福井謙一ノーベル化学賞受賞                          |
|       |            |   | 11月   | 県立自然科学館がオープン                           |
| 昭和57年 | 12月        | 石塚利博取締役就任   | 6月    | 東北新幹線が開業                               |
|       |            |   | 8月    | 長岡市がテクノポリス構想策定地域に指定される                 |
|       |            |   | 11月   | 上越新幹線が開業                               |
| 昭和58年 | 4月         | 青柳久雄出向  | 2月    | 中・下越平野部で大雪、新潟市で積雪98cmを記録               |
|       |            |   | 4月    | 東京ディズニーランド開園                           |
|       |            |   | 9月    | 大韓航空機がソ連空軍機にミサイルで撃墜される                 |
| 昭和59年 |            |   | 1月    | 上・中越地方山沿いに豪雪                           |
|       |            |   | 3月    | 江崎グリコ社長誘拐される                           |
|       |            |   | 8月    | 北越北線を運営する「北越急行(株)」が正式発足                |
| 昭和60年 | 12月        | 池田 朗取締役就任、石塚利博取締役退任   | 2月    | 青海町玉ノ木で大規模な地すべり                        |
|       |            |   | 4月    | NTT、日本たばこ産業が民営化により発足                   |
|       |            |   | 6月    | 新潟市新光町に県庁新庁舎が完成                        |
|       |            |   | 8月    | 日航ジャンボ機御巢鷹山の山中に墜落                      |
|       |            |   | 10月   | 東京練馬～長岡間の関越自動車道が全線開通                   |
| 昭和61年 | 12月        | 本社移転<br>新潟市学校町通2番町5295番地  | 2月    | 上越地方で戦後最高の302cmの積雪を記録                  |
|       |            |   | 4月    | ソ連でチェルノブイリ原発事故                         |
|       | 12月        | 親会社の興和地下建設株式会社が株式会社興和に社名変更  | 10月   | アメリカの人工衛星ランドサット利用の「地すべり予知研究」が糸魚川でスタート  |
|       |            |   | 11月   | 伊豆大島の三原山が噴火                            |
| 昭和62年 | 3月         | 近藤昭二監査役就任   | 4月    | 国鉄分割民営化でJRが誕生                          |
|       |            |   | 5月    | 県立ガンセンターが改装オープン                        |
|       |            |   | 9月    | 北陸自動車道の最後の壁「子不知トンネル」が開通                |
|       |            |   | 12月   | 利根川進がノーベル生理学、医学賞を受賞                    |
| 昭和63年 | 3月         | 池田 朗代表取締役就任、川又敏郎取締役就任<br>早川末吉代表取締役、取締役退任                                      | 3月    | 青函トンネル開通                               |
|       |            |   | 4月    | 瀬戸大橋開通                                 |
|       | 4月         | 小川吉広、大島克幸出向<br>金子佐一郎経理担当(兼務)  | 6月    | リクルート、スキヤンダルが発生                        |
|       |            |   | 7月    | 北陸自動車道が全線開通                            |
|       | 6月         | ジオテクサービス株式会社に社名を変更  | 9月    | 韓国のソウルでオリンピック開幕                        |
|       |            |   |       |  |
|       |            | 消雪パイプブロックの取扱いを始める   |       |  |
|       |            | 山野田地すべり計測機器設置工事   |       |  |
|       |            | 大所災害復旧工事  |       |  |

| 年     | 会社の経歴と主な工事 |   | 社会の動き |                              |
|-------|------------|---|-------|------------------------------|
| 昭和64年 |            |   | 1月    | 昭和天皇崩御、新元号は「平成」となる           |
| 平成元年  |            | 設置型傾斜センサーの量産体制にはいる                        | 4月    | 消費税導入                        |
|       |            | 法面緑化基盤材「Gソイル」の販売を始める                      | 6月    | 中国・天安門事件                     |
|       |            |   | 11月   | ベルリンの壁崩壊                     |
| 平成2年  | 2月         | 石川 亨入社                                    | 3月    | ソ連の初代大統領にゴルバチョフ氏が就任          |
|       |            |   | 9月    | 台風19号が本州を縦断、多数の死者を出す         |
|       |            | 福島潟に動態観測システムを設置                           | 10月   | ドイツ統一                        |
|       |            |   | 12月   | TBSの秋山豊寛さんが日本人初の宇宙へ          |
| 平成3年  | 7月         | 許可業種追加(とび、土工)                             | 1月    | 湾岸戦争勃発                       |
|       | 12月        | 興和の新井市長沢現場で温泉ボーリング掘削中に原油流出事故              | 6月    | 長崎の雲仙普賢岳が噴火、大規模な火砕流で多数の死者を出す |
|       |            |   | 12月   | ソビエト連邦が解体                    |
|       |            | 蓬平地すべり計測機器設置工事                            |       |                              |
|       |            | 惣領地すべり計測機器設置工事                            |       |                              |
| 平成4年  |            |   | 4月    | バブル崩壊、倒産が史上最悪に               |
|       |            |   | 6月    | PKO協力法案が成立                   |
|       |            | 福島潟計測機器設置補修工事                             | 7月    | スペインのバルセロナでオリンピック開幕          |
|       |            |   | 9月    | 佐川疑惑で金子知事が引責辞任、平山知事誕生        |
| 平成5年  | 3月         | 品田悦孝監査役就任                                 | 5月    | 日本プロサッカーリーグ開幕                |
|       | 4月         | 小林草一郎入社                                   | 6月    | 皇太子殿下、雅子さまご成婚                |
|       |            |   | 8月    | 連立政権誕生により55年以來の自民党政権に幕       |
|       |            | 大洞地すべり自動観測システム設置工事                        | 12月   | 冷夏による凶作で米を緊急輸入               |
|       |            | 西湘バイパス観測機器設置工事(神奈川)                       | 12月   | 田中元首相死去                      |
| 平成6年  |            |   | 4月    | 名古屋空港で中華航空機が着陸に失敗、死者多数       |
|       |            |   | 7月    | 北朝鮮の金日成主席死去                  |
|       |            | 吉川モニタリングシステム機器設置工事                        | 7月    | 製造物責任法(PL法)公布                |
|       |            | 鷹の巣計測機器設置工事                               | 9月    | 関西国際空港開港                     |
|       |            |   | 10月   | 大江健三郎氏がノーベル文学賞を受賞            |
| 平成7年  | 11月        | 資本金を1千万円に増資                               | 1月    | 阪神・淡路大震災発生、記録的な被害となる         |
|       |            |   | 3月    | 地下鉄サリン事件が発生                  |
|       |            | 台湾の梨山地すべり地にて興和のもとでモニタリングの機器販売、技術指導を継続的に行う | 4月    | 東京都知事に青島幸男氏、大阪府知事に横山ノック氏が当選  |
|       |            | 梅津モニタリング機器設置工事                            | 12月   | 核燃料開発事業団の高速増殖炉「もんじゅ」で冷却      |
|       |            | 巻バイパス観測機器設置工事                             |       | ナトリウムの漏出事故                   |
| 平成8年  | 5月         | 五十嵐 武取締役就任、川又敏郎取締役退任                      | 2月    | 北海道の豊浜トンネルで崩落事故、20人が死亡       |
|       |            |   | 7月    | アトランタオリンピック開幕                |
|       |            | 高精度2軸傾斜センサーの取扱いを始める                       | 7月    | 新潟空港新旅客ターミナルビルがオープン          |
|       |            | 七ツ釜観測機器設置工事                               | 8月    | O-157が猛威を振るい、死者11人           |
|       |            |   | 12月   | 姫川上流蒲原沢の土石流で14人が死亡           |
| 平成9年  | 3月         | 小川吉広取締役就任、桑原 剛取締役退任                       | 4月    | 消費税を5%に引き上げ                  |
|       | 4月         | 下妻孝弘入社                                    | 5月    | 神戸児童連続殺傷事件が発生                |
|       | 9月         | 本社移転                                      | 7月    | 香港が中国へ返還                     |
|       |            | 新潟市鳥屋野4丁目7番22号                            | 8月    | ダイアナ元皇太子妃がパリで事故死             |
|       | 10月        | 興和が本社を新光町6番地1に移転                          | 10月   | 磐越自動車道が全線開通                  |
|       | 12月        | 南雲政博取締役就任                                 | 10月   | 長野新幹線が開業                     |
|       |            |   | 11月   | 北海道拓殖銀行、山一証券破綻               |
|       |            | 小平沢警報装置設置工事                               |       |                              |
|       |            | 滝坂観測機器設置工事                                |       |                              |

| 年     | 会社の経歴と主な工事         |                           | 社会の動き     |                                 |
|-------|--------------------|---------------------------|-----------|---------------------------------|
| 平成10年 | 4月                 | 外山裕一、間野勇一出向               | 2月        | 長野冬季オリンピック開幕                    |
|       | 6月                 | 建設コンサルタント登録(地質)           | 6月        | サッカーワールドカップに日本初出場               |
|       | 12月                | 桑原 剛代表取締役、取締役就任           | 7月        | 和歌山で毒入りカレー事件                    |
|       |                    | 池田 朗代表取締役退任               | 8月        | 新潟・下越・佐渡地方に集中豪雨                 |
|       |                    | 大河津モニタリング機器設置工事           | 11月       | 長岡の吉原組が会社更生法を申請                 |
| 平成11年 | 12月                | 小川吉広取締役退任、興和へ移籍           | 4月        | 東京都知事に石原慎太郎氏当選                  |
|       |                    |                           | 5月        | 新潟県佐渡トキ保護センターでトキのひなが誕生          |
|       |                    |                           | 9月        | 茨城県東海村で国内初の臨界事故が発生              |
|       |                    | 北川内川地震計設置工事(新潟県)          | 10月       | 介護保険制度開始                        |
|       |                    | 井坪川地震計設置工事(新潟県)           | 10月       | 新潟中央銀行が破綻                       |
|       | 滝坂観測機器設置工事         | 10月                       | 上信越道が全線開通 |                                 |
| 平成12年 | 1月                 | 宮島英樹、鈴木直文、石塚英樹出向          | 2月        | 大阪で全国初の女性知事が誕生                  |
|       |                    | 間野勇一出向解除                  | 3月        | 北海道の有珠山が噴火                      |
|       | 3月                 | 青柳久雄定年退職                  | 6月        | 雪印の製品による食中毒が発生                  |
|       | 4月                 | 石黒重実出向                    | 9月        | 三宅島の地震により島民が本土に避難               |
|       | 12月                | 福田 実取締役就任                 | 9月        | シドニーオリンピック開幕                    |
|       |                    |                           | 11月       | 白川英樹氏にノーベル化学賞                   |
|       |                    | 法面基盤材「Gソイル」の取扱いを興和に移管     |           |                                 |
|       |                    | 戸沢川土石流検知器設置工事             |           |                                 |
|       | 上越管内地すべり自動観測機器設置工事 |                           |           |                                 |
|       | 東立島災害モニタリング機器設置工事  |                           |           |                                 |
| 平成13年 | 4月                 | 島田芳三入社                    | 1月        | 省庁再編により建設省と運輸省が統合し、国土交通省となる     |
|       | 5月                 | 許可業種追加(電気)                |           |                                 |
|       | 11月                | 岩波由昭出向                    | 2月        | えひめ丸、米原潜衝突事故                    |
|       |                    |                           | 4月        | 小泉内閣発足                          |
|       |                    | 柏崎地すべり感知器設置工事(新潟県)        | 9月        | 米中枢同時テロが発生、NYで数千人の死者            |
|       |                    | 柏崎管内地すべり警報システム設置工事(日さく)   | 10月       | 野依良治氏にノーベル化学賞                   |
|       |                    | 長岡管内地すべり警報システム設置工事(日さく)   | 12月       | 皇太子妃雅子さまが愛子さまをご出産               |
|       | 酒田バイパス余目歩道整備工事     |                           |           |                                 |
| 平成14年 | 1月                 | 宮島英樹出向解除                  | 1月        | 欧州単一通貨ユーロの現金流通が始まる              |
|       | 2月                 | 小林草一郎退職                   | 2月        | ソルトレークシティー冬季オリンピック開幕            |
|       | 12月                | 許可業種追加(電気通信)              | 4月        | ペイオフ解禁                          |
|       |                    |                           | 6月        | サッカーワールドカップが日本と韓国で共催            |
|       |                    | 富山消融雪設備改良工事               | 9月        | 小泉首相が訪朝                         |
|       |                    | 湯沢・小出管内消雪制御設置工事           | 12月       | 小柴昌俊氏がノーベル物理学賞、田中耕一氏がノーベル化学賞を受賞 |
|       |                    | 289号9号トンネル土石流警報機器設置工事(西松) |           |                                 |
|       | 綱木山地災害予知システム設置工事   |                           |           |                                 |
| 平成15年 | 1月                 | 渡辺秀生出向                    | 2月        | スペースシャトル「コロンビア」が空中分解            |
|       |                    | 外山裕一、石塚英樹出向解除             | 3月        | イラク戦争勃発、米英軍機が空爆開始               |
|       | 3月                 | 福田勝之取締役就任、福田 実取締役退任       | 5月        | 新型肺炎(SARS)が世界的流行                |
|       | 5月                 | 建設コンサルタント登録削除             | 5月        | 個人情報保護法が成立                      |
|       | 10月                | 鈴木直文出向解除                  |           |                                 |
|       | 12月                | 南雲政博代表取締役就任               |           |                                 |
|       |                    | 桑原 剛代表取締役、取締役退任           |           |                                 |
|       |                    |                           |           |                                 |
|       |                    | 小野見川離島通常砂防工事(新潟県)         |           |                                 |
|       | 一箕町地区消融雪施設工事(ドリコ)  |                           |           |                                 |
|       | 市屋IC消雪設備工事(昱工業)    |                           |           |                                 |

